

(様式1)

平成28年度 授業改善推進プラン 調布市立調和小学校

【児童・生徒の学力向上を図るための調査結果の分析より】

【学力向上に関する学校経営方針】

- 確かな学力の育成
- 基礎的な知識及び技能の確実な習得
- 課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成
- (1)算数授業の充実(ベーシックドリルの活用・補習の実施)
- (2)柔軟な指導体制(教科担任制・交換授業・合同授業等)
- (3)個別指導計画に基づいた分かりやすい授業
- (4)規律ある授業態度の育成

【平成28年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」に関する調査結果分析内容】

- 関心・意欲・態度はよい。
- 問題を読みとり、解決する力を伸ばす必要がある。
- ⇒調和小児童は、学習意欲をもっている。しかし、問題点を読みとり、解決する力が低い。児童が問題・課題や資料について主体的に思考・判断・表現し、解決するような授業を調和小全体で展開する必要がある。

【授業改善の方針・目標】

指導者が 児童が主体的になって問題解決する授業を行う。
 ・活動の目標を明確にし、文章や図表から取り出した情報を説明させる。
 ・内容の意図や背景、理由を理解・解釈させたり推論させたりして問題解決させる。

児童にとって 解きたくなる問題がある授業、自分で聞いたり調べたり説明したくなったりする授業

【授業改善のための具体的な取組】

●学習の目的・見通し・まとめをきちんとおさえて問題解決を行う。

国語

- 叙述に着目し、根拠を明確にして考え、説明させる。
- 説明文では、読み取りだけでなく、筆者の考えに対する自分の考えをもたせるようにする。
- 接続詞の意味に着目して読み取る力を伸ばすため、文章における接続詞の役割を確認する。
- 問いに対して、語尾を適切に書けるよう、普段から主語に正対した語尾の使い方を指導していく。
- 学習の基盤となる読書の習慣化に向けて、読書月間や図書室を有効的に活用する。また、学級でも学級文庫の充実や担任や保護者の読み聞かせ等、読書習慣が身に付くような指導に取り組む。
- 東京ベーシックドリルやステップアップワークを活用し、継続的に既習内容の定着を図る。

社会

- 興味をもって基礎的な知識を身に付けられるよう、内容に応じて手法を工夫し、継続的に指導する。(3年生 方角・地図記号 4年生 都道府県、東京都の区市町村名、とくに自分の住む市の位置など 5年生 県名・特産物・日本の産業 6年生 世界の国名・日本の歴史)
- また、各単元で確実に身に付けたい知識を明確にし、指導に生かす。その定着のため、ベーシックドリルを積極的に活用する。
- 関心・意欲が高まる資料を提示し、因果関係やおおまかな傾向をつかむ活動や、複数の資料を比較したり関連付けたりする活動を行う。その過程で、話し合いや自分の考えを説明する場を多く設ける。
- 社会科見学での気付きについて事後学習の場で、グループ毎に話し合い、分類整理するなどを通して思考力を磨く。見学した事象を検討し、学習事項とつなげてとらえさせる。
- 調べ学習に必要な資料を自分で探して、読み取り、まとめ、考察、発表する学習活動を行う。

算数

- 児童が興味・関心をもって問題解決学習に取り組めるような問題提示を工夫する。また、生活に即した学習課題を多く取り入れる。
- 問題を読んで場面をイメージし、課題を明らかにしたり、既習事項を関連づけたりする。
- 言葉・数直線・図などを使って、筋道を立てて解き方を考え、説明させる。
- 数量や図形について豊かな感覚が育つよう、算数的活動を充実させる。
- 東京ベーシックドリルやステップアップワークを活用し、計算・作図などの練習を継続して行い、知識技能の定着を図る。

理科

- 主体的に課題に取り組めるよう児童が自ら問題を見出しせるような導入の工夫をする。
- 実感を伴った理解ができるように日常生活や既習事項と結び付けて予想したり、実験方法を考えたりできるように資料や指示物を工夫する。
- 実験や観察の技能丁寧な指導し、一人一人が主体的に学習に取り組めるようにする。
- 実験結果から確かになったことを自分の言葉で書けるように指導する。
- 単元の最後にまとめ新聞作りをしたり、ベーシックドリルを積極的に活用したりして知識・理解の定着を図る。

体育

- 図や模範の動きを見て、技能ポイントを理解し、運動に活かせるようにする。
- 個に応じた運動ができるように、学習の場を設定する。
- 学習カード(ノート)を使う。
- 教え合い、学び合いができるようにペアの活動やグループの活動を取り入れる。
- 学習のめあてを設定し、児童に理解させる。
- 学習の流れの中で、振り返りを行い、よりよい動きを身に付けさせる。
- 主運動につながる準備運動、間隔つくり運動を取り入れる。

音楽

- 歌唱(合唱も含む)・器楽などの基礎的な表現の能力を伸ばし、思いや意図をもって表現活動に取り組めるようにする。
- 鑑賞活動では、楽曲の特徴や演奏のよさに気付かせられるよう、楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表す活動を行う。

図工

- 表したいことを見付け、形や色、材料などを生かし、計画的に取り組める力を育てる。
- 表したいことに合わせて、材料や用具を活用できるような力を育てる。
- 制作や鑑賞を通して、自分の作品のよさや美しさなどを自分の言葉で表現できるようにする。

家庭科

- 基礎的な知識や技能を身に付けることができるように、自分の生活と結びつけて考えられるようにする。
- 学んだことを積極的に実生活で生かすことができるような教材を用意する。
- 児童が自分なりに考え、よりよい生活のために創意・工夫することができる場面を設定する。

生活

- 身近な事物や事象を用いて、児童に具体的な活動や体験をさせる。
- 児童が自分のよさや可能性に気付く、自信をもって生活できるように成長を振り返ったり、実感したりする活動を設定する。
- 分かったことや考えたことを友達や大人に発表する機会を多く設け、経験を生かして伝え合う力を育てる。

●学習の終わりに学習用語を使った振り返りや到達度評価を位置付ける。

●基礎的な知識及び技能の習得

- ①学習規律の構築 ②習熟度別指導及び補習・個別指導の実施 ③補助教材の活用 ④家庭学習の充実 ⑤特別支援を要する児童への支援や配慮

【取組の進行・管理、評価方法、時期】

- 学年の実態を学年会で共通理解し、具体的な取り組みの成果と課題を運営委員会で報告する。
- 12月までの進捗状況を1月の運営委員会で報告し、教科ごとにまとめる。
- 年度末学校評価を受けて3月に次年度の校内研究の方向性を示す。

平成28年度 授業改善推進プラン（調和小学校）

教科	授業改善のための具体的な取組	学校として位置付けている授業改善のための具体的な取組の目標値や評価規準等
国語	<ul style="list-style-type: none"> ● 既述に習し、視覚を明確にして考え、説明させる。 ● 説明では、読み取り付いた、筆者の考えに対する自分の考えをもたせるようにする。 ● 接続詞の意味に着目して読み取る力を伸ばすため、文章における接続詞の役割を確認する。 ● 問いに対して、語彙を適切に着用しよう。普段から主に正しい語彙の使い方を指し示して、学習の基礎となる語彙の習得に力をつける。読書や新聞紙を効果的に活用する。また、学習でも学級文庫の充実や読書の読後の体感かせ等、読書習慣が身に付くような指導に取り組む。 ● 東京ベーンクドリルやステップアップワークを活用し、継続的に既習内容の定着を図る。 	<p>1年…文章の中の大事な言葉に着目して、自分の考えを8割の児童が表現できるようにする。学習に関連する資料を用意し、児童の興味関心を広げられるようにする。同時、担任、保護者の協力のもと定期に行い、読書に対する興味関心を高める。単元や学期の終わりに東京ベーンクドリルやステップアップワークを活用し、既習内容の確認を継続して行う。</p> <p>2年…事柄の順序を考えながら8割以上の児童が、話したり、日記等に書いたり、大事なことを落とさずに言い残すことができるようにする。学期末の授業や宿題等で、東京ベーンクドリルやステップアップワークを活用し、既習事項の定着率を高める。</p> <p>3年…8割の児童が、既述を自ら話し取り取り理由を明らかにして自分の考えを送られるようにする。また、東京ベーンクドリル、ステップアップワークや購入しドリルを活用し、児童が漢字やローマ字の読み書きを8割以上できるようにする。</p> <p>4年…読む活動では単元を貫く語彙活動を充実し、9割の児童が明確な根拠をもとに自分の考えをもてるようにする。読書習慣が身に付くよう、読書に関連する学習事項を既習期間に行う。学期末東京ベーンクドリルやステップアップワークを活用する。</p> <p>5年…授業において、自身の意見の表明の際には、既述に基づいた根拠を明確にさせるとともに、問いに対する適切な語彙の使用を意図させるようにしていく。読書月間では既習事項の定着のため、追加の取り組みを各学級でも行う。ステップアップワークやドリルなどを日常的に活用し、既習内容の定着を図るようとする。</p> <p>6年…どのような文章でも、既述に基づいて内容を理解できる児童を多く育てようとする。そのための根拠となる資料の工夫を丁寧に読み取り付いた。様々な技法に対する理解を深めたりする活動を行う。友達とペアや複数、全体で交流する機会を多く設けることで、最終的には、9割の児童が既述を根拠に、自分の考えを話したり書いたりできるようにする。毎日の朝学習において、東京ベーンクドリルやステップアップワークを活用し、漢字や語彙事項等の既習事項の定着率を高める。</p>
社会	<ul style="list-style-type: none"> ● 興味をもつて基礎的な知識を身に付けられるよう、内容に応じて手法を工夫し、継続的に指導する。(3年生 方向、地図読取 4年生 都道府県、東京県の区市町村名、および自分の住む市の位置など 5年生 果物・特産物・日本の産業 6年生 世界の国名・日本の歴史) ● 新たな各単元で確実に身に付けたい知識を明確にし、指導に生かす。その定着のため、ベーンクドリルを積極的に活用する。 ● 関心・意欲が高まる資料を提示し、因果関係やおおまかな傾向をつかむ活動や、複数の資料を基盤として関連付けたりする活動を行う。その過程で、話し合いや自分の考えを説明する機会を多く設ける。 ● 社会科見学の気付きについて事後学習の場で、グループ毎に話し合い、分類整理することを通じて思考力を鍛え、既習した事項を確認し、学習事項をつなげていかにさせる。 ● 各単元学習に必要な資料を自分で探し、読み取り、まとめ、発表する学習活動を行う。 	<p>3年…8割の児童が、調べ学習によって集めた情報を再構成して、その集まりのどのようなことに関連するのかを考えてまとめることができるようにする。東京ベーンクドリルやステップアップワークを活用し、調べ学習の仕方や調べ方と既習事項を9割以上身に付けられるようにする。</p> <p>4年…年度末まで、都道府県の名、位置、東京郡の主な区市町村名を、8割の児童が身に付けられるようにする。そのために、2学期から東京ベーンクドリルを活用し、複数の資料を比較したり関連付けたりする活動も多く行い、並行して話し合い活動を多く取り入れることで、資料から読み取れることを自分の言葉で言うようにする。</p> <p>5年…日本の産業に関して、学習に必要な資料や教科書や資料集から自分で探す時間を授業中に確保したり、必要な資料に関して少人数で意見を交換したりする活動を通じて、8割の児童が情報を読み取り能力を高身に付けられるようにする。果物や特産物に関しては調べたり、PCを使って発表する機会を通じて基礎的な知識の定着を図る。</p> <p>6年…教科書や資料集、その他の資料関連付けを読み取り付いた。そこから考えられることを話し合ったりする機会を多く設ける。様々な観点をもとめるよう、ペアやグループでの話し合い、全体の検討を毎回行うようにする。これにより、8割の児童が資料から因果関係などを読み取れるようにする。授業の始めの5分間は、可能な限り知識定着のためのフュエルタイムによる学習を行うようにする。必要に応じてベーンクドリルを活用することで、各単元の学習内容の定着を図る。これにより、各単元で身に付けたい知識も、8割の児童が習得できるようにする。</p>
算数	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童が興味・関心をもって問題解決学習に取り組めるような問題提示を工夫する。また、生活に関した学習課題を多く取り入れる。 ● 問題を絵や場面イメージし、課題を明らかにしたり、既習事項を関連付けていく。 ● 言葉・数直線・図などを使って、筋道を立てて解き方を考え、説明させる。 ● 数量や図形について豊かな感覚が育つよう、算数的活動を充実させる。 ● 東京ベーンクドリルやステップアップワークを活用し、計算・作図などの練習を継続して行い、基礎技術の定着を図る。 	<p>1年…問題把握の場面で、イメージしように視覚的教材を提示する。演算決定のもとになる言葉や数に印を付ける。具体物を用いて数を数えたり、長さや測ったり、計算したりすることを進捗する。アア学習を取り入れ、9割以上の児童が、言葉、図などを使って自分の考えを表現できるようにする。単元や学期の終わりに東京ベーンクドリルやステップアップワークを活用し、既習内容の確認を継続して行う。</p> <p>2年…全ての児童が算数による加減と九九を習得できるようにする。アア学習を取り入れ、数直線や図を使って簡単な説明ができるようにする。学期末の授業や宿題等で、東京ベーンクドリルやステップアップワークを活用し、既習事項の定着率を高める。</p> <p>3年…アア学習を取り入れ、自分の考えを既習事項を使って説明する機会を多く設ける。既述を話し、8割の児童が説明できるようにする。東京ベーンクドリルやステップアップワークを活用し、課題とつながる数量関係や図形についての練習を継続して行う。東京ベーンクドリルの診断シートの満点割合を10%以上とする。</p> <p>4年…アア学習やグループ学習を取り入れ、自分の考えを詞や式などに表して説明する学習の活動を充実させる。8割の児童が自力解決できるようにする。東京ベーンクドリルやステップアップワークを活用し、計算・作図の練習を継続して行う。東京ベーンクドリルの診断シートの満点割合を10%以上とする。</p> <p>5年…アア学習を毎日の授業の中に組みこむことで言葉や図などを使って解き方を考えたり、それを説明したりする力をつけていく。計算・作図などの知識技能の定着に向け、東京ベーンクドリルやステップアップワーク、計算ドリルなどを活用していく。東京ベーンクドリルの診断シートの満点割合を10%以上とする。都庁学力テストに於ける満点割合を15%未満とする。</p> <p>6年…自分の考えを式や表にして、自身が説明する活動に加え、アア学習などの学習活動を重ねることにより、9割程度の児童が自力解決でき、8割程度の児童が、多様な方法で自力解決することができるようにする。東京ベーンクドリルやステップアップワーク等を活用し、基礎基本の定着を図っていく。東京ベーンクドリルの診断シートの満点割合を10%以上とする。卒業までに診断シートの正答率を90%以上とする。</p>
理科	<ul style="list-style-type: none"> ● 主体的に課題に取り組みよう児童が自ら問題を見出しせるような導入の工夫をする。 ● 実感を伴った理解ができるように日常生活や既習事項と結び付けて予想したり、実験方法を考えたりできるように資料や指示物を用意する。 ● 観察や実験の技能を丁寧に指導し、一人一人が主体的に学習に取り組めるようにする。 ● 実験結果から推察したことを自分の言葉で書けるように指導する。 ● 単元の最後はまとめ新聞作りをしたり、ベーンクドリルを積極的に活用したりして知識・理解の定着を図る。 	<p>3年…8割の児童が自然に頼み自ら自然に働きかけ、日常生活や既習事項と結びつけながら予想でき、自ら見いだした問題を追究できるようにする。自ら実験や観察結果についての理解を深めるために、学習のまとめとして、用紙に一枚まとめるようにする。また8割の児童が実験結果、観察を自分で書けるよう、書き方を指導する。</p> <p>4年…季節のベーンクドリルや実験、知識の定着を図る。</p> <p>5年…季節のベーンクドリルや実験、知識の定着を図る。</p> <p>6年…季節のベーンクドリルや実験、知識の定着を図る。</p> <p>7年…季節のベーンクドリルや実験、知識の定着を図る。</p> <p>8年…季節のベーンクドリルや実験、知識の定着を図る。</p>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ● 歌唱(合唱も含む)、器楽などの基礎的な表現の能力を伸ばし、思いや意図をもって表現活動に取り組めるようにする。 ● 鑑賞活動では、楽曲の特徴や演奏のよさをいかに受けとれるよう、楽曲を聴いて感想したことや感じたことを言葉で表す活動を行う。 	<p>1年…楽しく歌ったり、演奏したり、曲に合わせて身体を動かしたりできるようにする。鑑賞活動では、楽曲を聴いて感じたことをプリントに書いたり発表したりできるようにする。</p> <p>2年…鍵盤ハーモニカはタンギングや指を意識して演奏できるようにする。拍を意識し流れに乗るようにする。リズム打ちなどを通して身に付けさせる。</p> <p>3年…リコーダーの基礎的な演奏法を身に付けさせ、合奏へ発展できるようにする。音の重なりや変化を感じ取って歌ったり、演奏したりできるようにする。頭声・声無しを学び、定着できるように指導する。</p> <p>4年…歌や器楽に自ら音・強弱・曲想などを、聴き取りたり表現したりしようとする態度を身に付けさせる。単の学習を通じて姿勢や演奏法など日本の音楽を学ばせる。</p> <p>5年…二声の合唱に取り組み、とけあう音響がえられるようにする。技能を伸ばしたり楽器の演奏に対する音響意識を高めたりすることを音楽活動を通して身に付けさせる。</p> <p>6年…二声の合唱に取り組み、とけあう音響がえられるようにする。楽曲を聴きながら、表現したい気持ちや表現したい意図を育てる。和楽器の学習では、楽器の構造や特徴を知り、個人や小グループだけでなく、仲間と取り組み創り上げていくことの素晴らしさを学ばせる。</p>
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ● 表現したいことを見付け、形や色、材料などを生かし、計画的に取り組める力を育てる。 ● 表現したいことに合わせて、材料や用具を活用できるように育てる。 ● 制作や鑑賞を通じて、自分の作品のよさや楽しさなどを自分の言葉で表現できるようにする。 	<p>1年…表現したいことを見付け、材料や用具を活用できるように、基礎的な道具の使い方を学び、形や色、材料の特徴を感ぜられる表現を体験できるようにする。鑑賞カードを活用し、作品のよさを見付けたり伝えたりする機会をもつ。</p> <p>2年…制作前に、作品のイメージを膨らませる時間を確保すること、見直しをもって作品を制作できるようにする。鑑賞カードを活用し、作品のよさを見付けたり伝えたりする。</p> <p>3年…いろいろな材料や表現方法に出会う機会を増やし、表現したいことを見付けられるようにする。道具を大切に、正しい使い方ができるようにする。</p> <p>4年…つくること、見ることを楽しめ、集団の中で自分の気持ちや表現し、お互いの表現を認め合える力を育てる。道具を大切に、使い方を工夫することができるようにする。</p> <p>5年…既習事項を活かし、自分のイメージに合った材料や方法を選ぶようにする。手順を考えて制作に取り組めるようにする。道具を大切に、自分の表現したいことに合わせて使い方を工夫することができるようにする。</p> <p>6年…既習事項を活かし、自分の思いを表現するために必要な手順や方法を考え、見直しをもって取り組めるようにする。道具を大切に、自分の表現したいことに合わせて使い方を工夫することができるようにする。</p>
体育	<ul style="list-style-type: none"> ● 図や模範の動きを見て、技能ポイントを理解し、運動にかせるようにする。 ● 個に応じた運動ができるように、学習の場を設定する。 ● 学習カード(カード)を使う。 ● 教え合い、学び合いができるようにペアの活動がグループの活動を取り入れる。 ● 学習のあてを複数し、児童に理解させる。 ● 学習の流れの中で、振り返りを行い、よりよい動きを身に付けさせる。 ● 運動場につながる準備運動、感覚づく運動を取り入れる。 	<p>1年…学習カードを用いて個に応じたあてをもって楽しく活動できるようにする。</p> <p>2年…学習カードを用いて、あてを意識させて取り組ませたり、次に繋がるように振り返りやしたりできるようにする。</p> <p>3年…学習カードを用いて、技能のポイントや説明に提示することや個々のあての振り返りができるようにする。友達やよい動きを見付け、教え合いながら、運動の技能を習得できるようにする。主運動に取り組む前に、それに繋がる準備運動や感覚づく運動に取り組めるようにする。児童が自分のあてに合った学習の場を選ぶことができるようにする。</p> <p>4年…学習カードで技能ポイントを明らかにし、毎時間のあてをもって運動に取り組めるようにする。友達やよい動きを見付け、教え合いながら、よりよい動きを身に付けさせる。運動が苦手な児童に対しては、個に応じた場を設け、児童の実態に応じた指導ができるようにする。楽しみながら運動に親しみられるようにする。</p> <p>5年…学習カードを工夫して、技能のポイントを明確に提示することや個人あての振り返りができるようにする。友達との教え合いや協力の活動を取り入れ、運動の習得を目指す。運動が苦手な児童のために、練習の場を設け、実態に応じた指導を行えるようにする。</p> <p>6年…学習カードで技能ポイントを明らかにし、単元全体の計画、本時の流れを提示し、不安なく見直しをもって授業を行えるようにする。コアディネーション運動を取り入れる。</p>
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> ● 基礎的な知識や技能を身に付けることができるように、自分の生活と結びつけて考えられるようにする。 ● 身近な生活や課題に実生活で生かすことができるような教材を用意する。 ● 児童が自分なりに考え、よりよい生活のために創意工夫することができる場面を設定する。 	<p>5年…身近な生活の中から課題を見付け、学んだことを実生活に活かしていく学習の流れを大切にしたい。学習は体系的なものになるように工夫する。</p> <p>6年…児童が自分なりに考え、よりよい生活のために創意工夫することができる場面を設定できるような教材を用意する。学んだことを積極的に実生活や行事にいかすことができるように考える場面をつくる。</p>
生活科	<ul style="list-style-type: none"> ● 身近な事象や事象を用いて、児童に具体的な活動や体験をさせる。 ● 児童が自分のよさや可能性に自信を持ち、自らもって生活できるように成長を振り返りたり、実践したりする活動を設定する。 ● 分かったことや考えたことを友達や大人に発表する機会を多く設け、経験を生かして伝え合う力を育てる。 	<p>1年…具体的な活動や体験を多く取り入れ、自分なりの気付きや疑問をもてるようにする。分かったことや考えたことを友達に発表する機会を多く設けることで、伝え合う力を習得できるようにする。</p> <p>2年…具体的な活動や体験を多く取り入れ、自分なりの気付きや疑問をもてるようにする。分かったことや考えたことを友達に発表する機会を多く設けることで、伝え合う力を習得できるようにする。</p> <p>3年…具体的な活動や体験を多く取り入れ、自分なりの気付きや疑問をもてるようにする。分かったことや考えたことを友達に発表する機会を多く設けることで、伝え合う力を習得できるようにする。</p>